

平成 22 年 4 月 5 日現在

研究種目：基盤研究（A）  
研究期間：2007～2010  
課題番号：19203006  
研究課題名（和文） 法曹養成教育における経験的方法論としての臨床法学教育の研究  
研究課題名（英文） Study of Clinical Legal Education as Experiential Methodology in Professional Legal Education  
研究代表者  
宮川 成雄（MIYAGAWA SHIGEO）  
早稲田大学・法学学術院・教授  
研究者番号：30190739

研究代表者の専門分野：法学・英米法  
科研費の分科・細目：法学：新領域法学  
キーワード：臨床法学教育、法科大学院、法曹養成、司法修習、専門職教育、司法制度改革

### 1. 研究計画の概要

本研究課題は、次の5つの研究項目で構成されている。(1)日本の法科大学院における臨床法学教育の実施状況を把握する。(2)国際的な臨床法学教育の展開状況を把握する。(3)司法修習との方法論上の差異を明らかにし、法曹養成の改善に資する臨床法学教育のあり方を検討する。(4)他の専門職養成、例えば医師養成との比較において、臨床方法論の効用と課題について検討する。(5)臨床法学教育の方法論を、継続的法曹教育に取り入れる形態を検討する。

### 2. 研究の進捗状況

(1)日本の法科大学院での臨床法学教育の実施状況については、2009年4月に全国法科大学院クリニック調査結果を『臨床法学セミナー』第6号（臨時増刊）として刊行した。また、模擬裁判教育の実態調査についても、全国の法科大学院を対象に調査を実施し、その調査結果を現在取りまとめ中である。(2)国際的な臨床法学教育の展開については、ほぼ毎年アメリカ法科大学院協会の研究大会や、イギリスを中心とする国際臨床法学教育ジャーナルの研究大会などに研究員を派遣してきた。派遣研究員は帰国後に研究セミナーを開催して、全ての海外視察について報告している。これらの報告は、『臨床法学セミナー』等において適宜公表している。また、2009年12月にはカリフォルニア大学バークレー校との共催で日米の臨床法学教育を比較するシンポジウムを開催した。(3)司法修習との方法論上の比較については、2009年度の月例研究会においてアンケートの調査項目を数度に亘り検討し、2010年度にアンケートを実施するための基本的準備

を終えている。また、このアンケート調査を有効に実施するために日本弁護士連合会との協力関係の調整も行ってきた。(4)他の専門職養成との比較については、医学教育者との連携のネットワークを形成し、特に模擬患者や模擬依頼者というシミュレーション教育の効用と課題について比較するシンポジウムを、2007年12月に開催した。(5)継続的法曹教育については、司法修習の中に組み込まれる選択型修習のプログラムとして、大学における研究蓄積を活用したリーガル・カウンセリングの方法と臨床心理学の知見を結び付ける修習プログラムを研究しており、東京三会の弁護士会との連携のもとに具体的な成案を得る作業を行っている。

### 3. 現在までの達成度

達成度区分「おおむね順調に進展している。」

(1)全国法科大学院クリニック調査報告を刊行できたことは、大きな成果である。(2)国際的な比較においては、海外への研究員の派遣について報告の論稿を公表しており、また2009年12月にカリフォルニア大学バークレー校と共催した日米臨床法学教育比較シンポジウムの実現も大きな成果である。(3)司法修習の実態調査については、アンケート調査の準備がほぼ出来上がっている。(4)医師養成との比較研究では、医学部教育者との連携関係を構築できたことは大きな成果であり、法学教育と医学教育の共通した課題について双方の認識を共有するに至っている。(5)継続的法曹養成における臨床方法論の活用については、2009年度末から研究チームを編成し、具体的な教育プログラムを作成中である。

#### 4. 今後の研究の推進方策

2010年度には、司法修習との比較について、日本弁護士連合会の協力を得て弁護修習の実態調査を行う。国際比較については、4月末に日中韓の臨床法学教育についての比較シンポジウムを開催する。医師養成との比較については、5月末に大学という学術環境における専門職教育として法曹養成と医師養成の共通した課題を検討するシンポジウムを開催する。継続的法曹養成については、司法修習の一部として実施する選択的修習のプログラムを2010年度末に、その成案をとりまとめる。以上の研究活動については、引き続き『臨床法学セミナー』誌において公表する。

#### 5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計19件)

1. 宮川成雄「日本型臨床法学教育の形成と展望」早稲田法学(査読無)85巻3号(2010年3月)1137~1159頁。
2. 須網隆夫「臨床法学教育の実践と展望 法科大学院制度動揺の時期に」法曹養成と臨床教育(査読無)2号(2009年11月)1~25頁。
3. 宮澤節生「問題提起 なぜいま社会への貢献と社会との協働を論ずるか - 企画の趣旨と構成」法曹養成と臨床教育(査読無)2号(2009年11月)48~52頁。
4. アプロム・シャー(宮川成雄、佐藤裕則訳)「能力分類論とアメリカ型臨床教育から根拠に基づいた法実務へ」臨床法学セミナー(査読無)7号(2009年9月)5~21頁。
5. 須網隆夫「アメリカ臨床法学大会概要と大会テーマ『危険・失敗・機会』について」臨床法学セミナー(査読無)7号(2009年9月)138~143頁。
6. 浦川道太郎「法科大学院の入学定員のあり方」ロースクール研究(査読無)13号20~24頁(2009年5月)。
7. 浦川道太郎「リーガル・クリニックの課題-学内法律事務所との連携を中心に」京都大学法科大学院教育改善活動資料集(査読無)5号55~68頁(2009年4月)。
8. 宮川成雄「臨床法学教育の課題と展望 臨床法学教育学会の設立によせて」自由と正義(査読無)60巻4号(2009年4月)33~37頁。
9. 宮川成雄、ピーター・A・ジョイ、高良鉄美、佐藤崇文、四ッ谷有喜「臨床法学教育の全国教員組織の果たす役割 アメリカの経験と日本の課題 (ワークショップ)」法曹養成

と臨床教育(査読無)1号(2009年3月)167~188頁。

10. 浦川道太郎「早稲田大学法科大学院における私の民法教育」創価ロージャーナル(査読無)3号1~14頁(2009年3月)。
11. 須網隆夫、萩原猛、四宮啓「刑事弁護クリニックの現状と課題」法曹養成と臨床教育(査読無)1号(2009年3月)147~166頁。
12. 椛嶋裕之編「臨床法学全国クリニック調査報告書」臨床法学セミナー(査読無)6号(臨時増刊)[i~ ]+1~100頁。
13. 宮下次廣「臨床科目講義と病院実習の橋渡しとしてのシミュレーション教育 シミュレーション・ラボと模擬患者を活用し、OSCEで評価する」臨床法学セミナー(査読無)5号(2008年9月)24~44頁。
14. 宮川成雄、宮澤節生、佐藤崇文、和田仁孝「法曹教育とアメリカ法科大学院協会の役割」臨床法学セミナー(査読無)5号(2008年9月)96~118頁。
15. 浜辺陽一郎、胡光輝、梶村太市、宮川成雄「中国における臨床法学教育 西北政法大学と中山大学の場合」臨床法学セミナー(査読無)5号(2008年9月)148~157頁。
16. 宮澤節生「日本におけるコース・ローヤリング型公益弁護専門組織の可能性 - 試論 -」小島武司先生古稀祝賀『民事司法の法理と政策(下)』(商事法務、2008年8月)(査読無)885~909頁。
17. Setsuo Miyazawa, Kay-Wah Chan, and Ilhyung Lee, "The Reform of Legal Education in East Asia," *Annual Review of Law and Social Science*, No.4, 2008, pp.333-360 (査読無)。
18. 宮澤節生「スタッフ弁護士を公益弁護・刑事弁護の専門家集団とするために」自由と正義(査読無)58巻4号(2007年4月)17~28頁。
19. Setsuo Miyazawa, "The Politics of Judicial Reform in Japan: The Rule of Law at Last?", in William P. Alford (ed.), *Raising the Bar: The Emerging Legal Profession in East Asia*, Cambridge: Harvard University Press, 2007, pp.107-162. (査読無)